

長い歴史に育まれた伝統と文化あふれるまち「盛岡」の歩みは、盛岡藩初代藩主南部信直による盛岡城築城を始まりとしています。現在の盛岡のまちづくりの原点ともいえる盛岡城や城下町盛岡の歴史について多くのみなさまが関心を深め、その価値を再発見し、お

城をより身近な存在として感じられるきっかけとなるように、この「盛岡城日記 雑書」では、盛岡城復元調査推進室の活動や盛岡城に関する情報などをお伝えしていきたいと思ひます。第1回目となる今回は、「盛岡城復元調査推進室」について、ご紹介します！

「盛岡城復元調査推進室」って？



現在、国の史跡に指定されている「盛岡城跡」は、洗練された縄張と雄大かつ優美な石垣が残る近世史上重要な歴史遺産です。盛岡市ではこれまで、「史跡盛岡城跡保存管理計画」や「史跡盛岡城跡整備基本計画」などを策定し、計画に位置づけられた石垣の解体修復や遺構の確認調査、文献資料をはじめとする史資料調査等の事業の推進に取り組んできました。

また、令和3年1月からは、史跡の価値の理解促進を目的として、現在失われた歴史的建造物復元の可能性を探るため、盛岡城に関連した史資料調査に集中的に取り組んでおり、令和4年4月に「盛岡城復元調査推進室」を設置して、復元根拠となる史資料を探すための体制を整えました。

ひとまとめに「史資料調査」と表現していますが、実はその調査にも様々なアプローチがあります。今回はその一部を、ちよつとだけ覗いてみましょう。



盛岡城小噺

#盛岡城と秀吉

みなさんは、盛岡城の築城に、豊臣秀吉が大きく関わっていることを知っていますか？

本能寺の変で織田信長が倒れた後、盛岡藩初代藩主南部信直は、天下統一を目指す豊臣秀吉の信頼が厚かった加賀の前田利家との結びつきを強めます。その利家の取り成しにより、天正18(1590)年に秀吉から南部七郡の領有を安堵され、信直は豊臣政権の一大名として公認されることとなります。

そして天正19(1591)年、九戸政実との戦いを終えた秀吉の重臣浅野長政が大坂への帰途に信直のもとへ立ち寄り、北上川流域の要衝でもある現在の盛岡城跡の場所に新しい居城を築くよう勧めたと伝えられています。

信直は、秀吉の朝鮮出兵の命で肥前名護屋城に在陣している際、長政の仲介により秀吉から築城の認可を受けたとされ、その後、盛岡城の築城を開始します。併せて城下町の建設にも着手し、ここから「盛岡」のまちづくりが始まっていきます。

盛岡城の縄張(全体像の設計)についても長政が担い、豊臣政権の意向が大きく反映されたものとされており、それまでの北東北にみられる形式とは異なる縄張となっているのも、盛岡城の特徴です。また、内曲輪の構造が豊臣期の大坂城と酷似しているとの指摘もあり、その構造も含め、秀吉の影響は、盛岡城の処々に垣間見ることができます。

盛岡城復元調査推進室の取組の詳細は、市ホームページに掲載しています。盛岡城に由来があると伝わる資料や建物等に関する情報などありましたら、盛岡城復元調査推進室(019-613-7956)まで、情報提供をお願いします。



「史資料調査」を知る！

土蔵等の資料探索

土蔵は古くから残る建造物で、収納のための施設でもあるため、過去の貴重な文物が保管されていることがあります。その中には、盛岡城に関する史資料が残されている可能性も高いと考えられるため、所有者の方にご協力をお願いし、その内部調査に取り組んでいます。



移築建物・部材に関する調査

盛岡市内外には、盛岡城の建物を移築したり、部材を再利用して建てられたと伝わる建物が複数あります。当時の建築部材や意匠等に関する情報を集めるため、こうした伝承をもつ建物など、盛岡城の部材等が再利用された可能性のある建造物の調査を進めています。

建具等に関する調査



各種建具や金具類等からは、盛岡城の建物内部の意匠の一端を知ることができます。板戸等からは、部屋の格式やその意匠はもちろんのこと、その大きさから、鴨居の高さなど建物内の構造に関する情報も読み取ることができます。

◆ ◆ ◆  
この他に取り組んでいる調査として、県内外の資料館等への所蔵品の照会や内容調査、当時の普請奉行や大工奉行・大工職人などの家系調査などがあります。今後、これまでの調査で見つかった資料についても、いろいろ紹介していきたいと思ひます。  
◆ ◆ ◆  
また、調査以外にも、復元建物の基本図作成やパネル展の開催、各種講座への講師派遣など、盛岡城復元調査推進室で行っている取組は様々あります。それらの最新情報も、引き続きお知らせしていきますので、これからの「盛岡城日記 雑書」もぜひお楽しみください！